

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成26年7月3日(2014.7.3)

【公表番号】特表2013-530155(P2013-530155A)

【公表日】平成25年7月25日(2013.7.25)

【年通号数】公開・登録公報2013-040

【出願番号】特願2013-512128(P2013-512128)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/07 (2006.01)

C 1 2 N 1/20 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 39/07
C 1 2 N 1/20 E
A 6 1 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成26年5月15日(2014.5.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

癌を患っている哺乳類の補助薬物療法において使用するための、癌抗原の発現可能な免疫学的に活性の部分をコードする弱毒化された、代謝的に活性なリストリアであって、前記哺乳類は、癌抗原を発現する癌細胞を除去または死滅するために、前記哺乳類に投与される一次療法の前にもしくは後に補助薬物療法として前記リストリアを用いて治療されることを特徴とする、弱毒化された、代謝的に活性なリストリア。

【請求項2】

前記哺乳類は、前記補助薬物療法の前に一次療法を既に受けている哺乳類である、請求項1に記載の弱毒化された、代謝的に活性なリストリア。

【請求項3】

前記一次療法が、前記哺乳類から癌細胞を除去するための手術、前記哺乳類における癌細胞を死滅させるための放射線療法、または手術と放射線療法の両方を含む、請求項1または2のいずれか1項に記載の弱毒化された、代謝的に活性なリストリア。

【請求項4】

前記補助薬物療法は、前記リストリアを複数回の投与で投与することを含む、請求項1～3のいずれか1項に記載の弱毒化された、代謝的に活性なリストリア。

【請求項5】

前記リストリアがA c t Aを不活性化する変異を有する、請求項1～4のいずれか1項に記載の弱毒化された、代謝的に活性なリストリア。

【請求項6】

前記リストリアがI n 1 Bを不活性化する変異を有する、請求項1～5のいずれか1項に記載の弱毒化された、代謝的に活性なリストリア。

【請求項7】

前記リストリアがa c t A i n 1 Bである、請求項1～6のいずれか1項に記載の弱毒化された、代謝的に活性なリストリア。

【請求項 8】

前記リステリアは死滅しているが、代謝的に活性である（「K B M A」）、請求項1～7のいずれか1項に記載の弱毒化された、代謝的に活性なリステリア。

【請求項 9】

前記癌抗原がメソテリンのすべてまたは一部である、請求項1～8のいずれか1項に記載の弱毒化された、代謝的に活性なリステリア。

【請求項 10】

前記哺乳類が、前記癌抗原のすべてまたは一部を発現するヒト細胞系由来の細胞をあらかじめ投与されており、前記細胞が顆粒球マクロファージコロニー刺激因子を產生して分泌するように組み換え修飾されており、かつ前記細胞が分裂しないように修飾されている、請求項1～9のいずれか1項に記載の弱毒化された、代謝的に活性なリステリア。

【請求項 11】

前記癌が膵臓癌、非肺小細胞癌、卵巣癌および中皮腫からなる群から選択される、請求項1～10のいずれか1項に記載の弱毒化された、代謝的に活性なリステリア。

【請求項 12】

癌を患っている哺乳類の治療において使用するための、
(a) 癌抗原のすべてまたは一部を発現するヒト細胞系由来の細胞の組成物であって、前記細胞が顆粒球マクロファージコロニー刺激因子を產生して分泌するように組み換え修飾されており、かつ前記細胞が分裂しないように修飾されている、細胞の組成物、および、
(b) 癌抗原の発現可能な免疫学的に活性の部分をコードする、弱毒化された、代謝的に活性なリステリア、
の組み合わせであって、前記リステリアは前記細胞の組成物の投与の後に投与されることを特徴とする、組み合わせ。

【請求項 13】

前記リステリアによって発現される癌抗原がメソテリンである、請求項12に記載の組み合わせ。

【請求項 14】

前記リステリアが a c t A i n 1 B である、請求項12に記載の組み合わせ。

【請求項 15】

前記リステリアは死滅しているが、代謝的に活性である（「K B M A」）、請求項12に記載の組み合わせ。